

岸野久・村井早苗『キリシタン史の新発見』（村井）

書評

## 岸野久・村井早苗編

### 『キリシタン史の新発見』

村井文彦

永年にわたりキリシタン史を考究され、多くの業績を重ねられた海老澤有道先生が天国に凱旋されたのは一九九二年一月三日のことであった。先生はそのご逝去の二月前まで、ご自宅の「海老澤ゼミナール」において、若い研究者を育み、かつ、ともに励んでおいでだったという。

本書は、言うなれば、在天の師に献呈する論集であり、「海老澤ゼミナール」で、海老澤先生の薫陶を受けた方々の、多方面におよぶ研究の成果をまとめたものである。

改めて言うまでもないことだが、キリシタン史の対象は多岐にわたる。本書の範囲とする時代と地域も、従って、広い。

先ずは、16世紀の布教前史である。岸野久氏の「フラン

シスコ・ザビエルの日本布教構想」によって、私たちは、これまで触れられることのなかった聖フランシスコ・ザビエルの東アジア布教の構想を知ることができる。聖フランシスコは、インドでの布教実践から導かれた日本布教の方策を抱きつつ、自らこの大構想のパイオニアとなり、後に続くを信じて、東アジアの波濤を越えたのであった。

では、新たにキリストの教えを述べ伝えられた当時の日本人は、これを、何故に、また、いかに受容したのか。西連寺育子氏の「陰陽頭賀茂在昌のキリスト教受容をめぐる」と清水紘一氏の「高山右近の改易について」の二論文は、その一端を示して興味深い。

天文暦道の家に育った在昌は、宣教師のもたらした、中世日本の水準を凌駕する、より正確な天文学を一つの契機として信心を得た。実証的科学知識も信仰の例証となりえたのである。一方、高山右近においては、カトリックの信仰と日本在来の武士道と茶道は、互いに退けあうものではなかった。彼の出処進退は、この三つの道の全き実践だったのである。

やがて、近世日本国家は、彼らキリシタンの排除を選ぶ。村井早苗氏は「琉球におけるキリシタン禁制」で、薩摩藩の支配下にある琉球王国で、キリシタン禁令がどのように実行されたかを探り、その日本本土との差に、近世日本に

おける沖縄の位置を見ている。

そして、その禁制にもかかわらず、否、禁制の故に、日本再布教の意思は遂に尽きることがなかった。

中島昭子氏の「フォルカード神父とカトリックの日本再布教」は、日本に再び福音の燈火を灯そうと心を砕いた老司祭と、彼を巡る諸情勢を伝えて興味深い。日本再布教は、既に政教一致を過去のものとした帝国にせよ共和国にせよ、世俗的なフランス国家との対峙と協調のなかで準備されたのだった。よもやナポレオン三世やティエールに、クリシタン史の分野でお目に掛かろうとは思ひも寄らなかったが、19世紀も16世紀同様、国権の膨張と教勢の拡大は軌を一にしていたので驚くべきものではなかった。

小川早百合氏も「一九世紀西欧における琉球情報と宣教師」において、ヨーロッパ諸国の海外伸長が宣教の前提であることを確認された。宣教師の求めた地域の情報も、この時潮に乗ったあまたの探検家・学者の東洋紹介記事を活用したものであった。

さて、近世国家が瓦解して、カトリックは公然と復活し、新教にも新たな展望が開けた。

太田淑子氏の「阿部眞造の『告解式』」は、一旦はカトリックに救いを求めながら、改めて神道に走った男、阿部眞造の手に成る解説書『告解式』の紹介である。「告解」

はキリスト教の秘蹟の一つであり、罪の赦にかかわる。同書は漢文への傾きが強いが、これは漢籍の素養のある知識層―未だ新教各派が狙ってはいなかった層である―を意識したためだという。そのためか、「汝殺す勿かれ」の戒にかかわる究明の簡条の最後に、「刀剣ヲ試ん為ニ乞丐ヲ殺セルコトアリヤ」とある。

渡辺久美子氏による「イギリス教会宣教会 (Church Missionary Society) 日本関係資料について」は、英国のバーミンガム大学中央図書館に架蔵されているイギリス教会宣教会関連資料の概要のである。同会は十八世紀末の設立以来、アフリカ・アジア地域への宣教に従事してきた。よって、同会の資料には、往時の宣教に縁のあるさまざまな文書が収められており、日本関連に限っても、膨大なものがある。目録中には、英国国教会にかかわる資料も見えるし、アイヌ語で書かれた手紙も見える。明治のアイヌ人は、何をキリストに祈ったのであろう。詳細な紹介を待ちたい。

若干林英夫本学名誉教授の跋文と重なるが、海老澤先生が先鞭をつけたこの分野が、かく受け継がれ、進展していることは慶ばしいことである。教壇を退かれても、世を去られても、なお史学に貢献される先生のご遺徳と、この良き師の衣鉢を継いだゼミナール各員のご精励が、改めて感

岸野久・村井早苗『キリシタン史の新発見』（村井）

じられる本書を、日本の中世・近世そして海外交渉を学ぶ人等、歴史学にかかわる人々はもとより、宗教に関心のあ  
る人、そして、キリスト教に心をよせる全ての人々に勧め  
たい。

（JRA競馬博物館 学芸員）

（岸野久／村井早苗編『キリシタン史の新発見』、雄山閣  
出版、定価三九一四円）